

ダンボールコンポスト

— 生ごみを栄養満点の肥料に変えてみませんか？ —

ダンボールコンポストとは？

自宅で簡単にできるダンボールを使用した「生ごみ処理機」のことです。食べ残しなどの生ごみを微生物の力で分解し、家庭菜園などで使える肥料を作ることができます。ごみが減るだけでなく、栄養満点の堆肥が作れるなど、資源の有効活用にもつながる環境にやさしい取り組みです。

実際の様子



開始直後

水気がなく、サラサラな状態



開始 1.5 ヶ月後

- ・ 水気が出てくる
- ・ 分解中の生ごみも増える

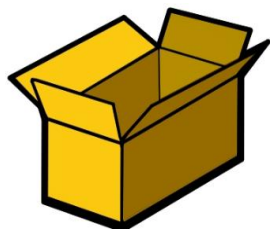


開始 3 ヶ月後

- ・ 水気が多く、固まりができる
- ・ 分解が遅くなる

準備するもの

ダンボール箱
(みかん箱程度)



底に敷く
ダンボール

基材 (中身)

- ・ ピートモス 9L
- ・ くん炭 6L

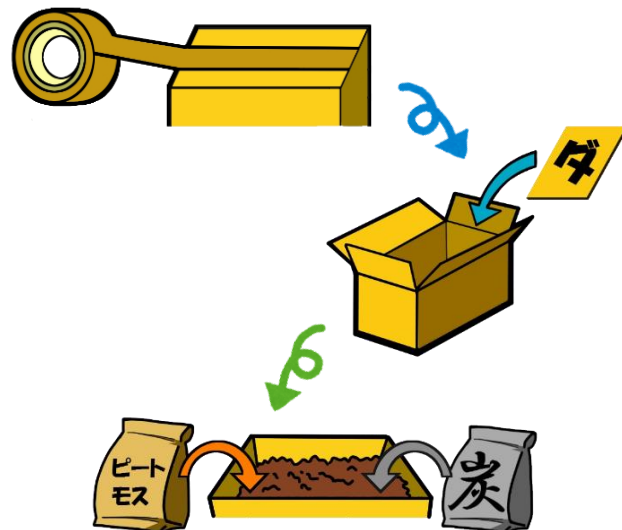


ダンボールを置く台
例) ブロックや角材など

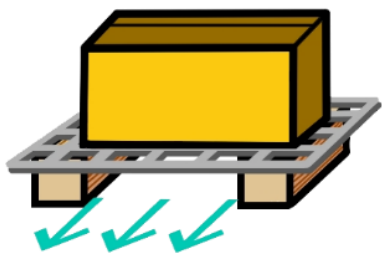
ダンボールコンポストを始めてみよう！

STEP1 コンポストを作ろう！

- ①ダンボール箱の底などをガムテープでふさぐ。
※すき間から虫が侵入し、卵を産みつけるのを防止します。
- ②底が抜けのない様に、ダンボール箱にダンボールを敷き、二重にして補強する。
- ③ピートモス 9L とくん炭 6L を箱の中に入れて、よく混ぜる。



STEP2 コンポストを設置しよう！



- ①風通しがよく、雨がからない場所に置く。
例) 軒下、ベランダなど
- ②ダンボール箱の底の風通しをよくするため、ブロックなどの上に置く。

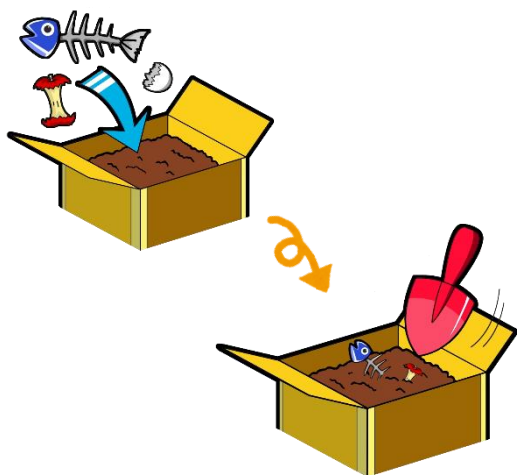
ポイント ダンボールは水を含むと崩れる原因になります。湿気がこもらない様にしましょう。

STEP3 生ごみをいれる準備をしよう！

- ①発酵状況を確認するための『温度計』と生ごみを混ぜる『スコップ』を箱の中に入れる。
※外に置いておくと虫に卵を産み付けられることも…。
- ②虫がコンポストの投入口から入ってこないように、袖と首回りを縫ったTシャツを被せてフタをする。



STEP4 生ごみをいれてみよう!



①水を切った生ごみを入れる。

重要!

- ・1日の投入量は500g程度にする!
- ・生ごみは小さくすると分解が早い!

②空気が中にはいるように、スコップでよくかき混ぜる。

※ダンボールを傷つけないように注意!

③混ぜ終わったらしっかりフタをする。



注意

分解しにくいものたち!

- ・鳥や豚、牛などの骨
- ・みかんなどの皮（防腐作用があるもの）
- ・トウモロコシの皮など繊維質が多いもの
- ・玉ねぎの皮

※分解しにくいものは、そのまま残って匂いの原因になること



STEP5 繰り返そう!

①温度や水気に気を付けてSTEP4の工程を繰り返す。

※分解はすぐには始まらないので、最初の1~2週間は見守る。温度が20℃~60℃に上がれば、分解が始まった合図!

※分解が進まないときや、温度が上がらないときは、微生物を応援するため、生ごみを入れるのを止め、パワーアップ素材をいれてみる!



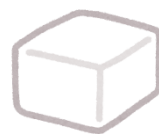
☆パワーアップ素材☆



食用油



米ぬか



牛脂

重要! 虫が…、カビが…、どうすれば?

○虫はどうしたら?

分解が進み温度が上がれば、虫は暮らしにくくなるため自然と出ていきます!

○カビはどうしたら?

白カビであればそのまま大丈夫です。よくかき混ぜてください!

STEP6 熟成して堆肥にしよう!



①3 か月間ほど続け、生ごみの分解が遅くなり、全体にべたつきが出てきたら、投入を止める。

②1 か月かけて熟成させる。2、3 日ごとにかき混ぜ、たまに水を加える。

③水分や匂いがなくなり、サラサラな状態になったら堆肥の完成。できた堆肥は濃度が高いため、3 倍の土と混ぜて使うのが Good!

※すぐに使わないときは、乾燥させてビニール袋に入れて保存する。



ヒント 成功するためのコツ!

○毎日かき混ぜて、中に空気を入れてあげるよう!

・微生物は、酸素を使って生ごみを分解するので空気が大事です。

○生ごみはしっかり水を切って、入れすぎない!

・水気が多いと分解が進まず、虫や腐敗菌の繁殖の原因に…

○温度を見て、コンポストの状況を把握しよう!

・どうしても温度が上がらないときは、パワーアップ素材を入れたり、箱のまま天日干したりするのも効果的です。